

# 宝塚市における地域連携推進に向けた取り組み ～病診薬連携による高齢者の服薬対策～

琢磨 寛孝 ●一般社団法人宝塚市薬剤師会 理事



「宝塚つーかーの会」SGDによる症例検討会(テレビ取材)

## 1. 背景と目的

超高齢社会に突入した我が国では、複数の疾患を抱える高齢患者が個々の疾患治療により多剤併用に陥り、服薬に伴うQOL低下や服薬過誤、薬物相互作用等による有害事象が社会問題になっている。

宝塚市では、地域医療の質的向上を図る目的で、宝塚市薬剤師地域連携研究会「宝塚つーかーの会」を2015年5月に設立した。本研究会は、地域連携による高齢患者のポリファーマシー対策を契機に、志を同じくする病院薬剤師・薬局薬剤師が一堂に集い、医師会の全面的協力の下、地域住民の薬物治療に貢献してきた。本活動の目的は、地域住民が安心して薬物治療が受けられるよう、さらなる発展を目指すことにある。

## 2. 取り組みの方法

まず、「宝塚つーかーの会」は、市域の取り組みを円滑にさせるための薬剤師教育や知識の共有の場としての役割を担っている。具体的な症例検討を交えて、医師・薬剤師が協議し、一つひとつ丁寧にフォローアップしている。また、若手薬剤師の交流の場として「ヤ

ングつーかーの会」を開催し、お互いに情報発信しやすい関係を構築している。これら研究会による薬剤師教育は、病院薬剤師・薬局薬剤師の相互理解を深めて知識・技能の向上を図り、医師への積極的な提案とその後のフォローアップとして、入院・在宅の薬物治療のシームレス化を可能にしている。

また地域完結型医療では、入・退・転院ごとに医療の場所が変わり、薬も変わることが高齢患者の服薬アドヒアランスを低下させている。

本研究会は、多職種(医師会、行政、歯科医師会、歯科衛生士会、栄養士会、看護協会、介護支援専門員協会、社会福祉士会、介護福祉士会、理学療法士会、作業療法士会等)とお互いの業務の把握をし、「顔の見える関係」の構築に取り組んだことで、宝塚市域の薬剤師がより現場に即した対応が可能になり、地域包括ケアシステムの構築、ひいては宝塚市民の健康増進に大きく寄与してきた。

## 3. 期待される成果

本研究会を薬剤師研修の場として今後も継続し、具体的目標の1つとして宝塚市のビッグデータ解析によりポリファーマシーに関連する繁用薬剤の現状を把握し、病院、医師会、行政と情報共有による話し合いの中から宝塚市独自の医薬品適正使用に基づいた地域フォーミュラリを構築し、地域住民への安心安全な薬物治療を推進していきたい。